

5. 地域別構想

5-1. 地域区分の設定

全体構想を住民生活により密着した具体的な構想とするため、村内を東部地域・南部地域・西部地域の3つに区分し、地域別構想を策定します。

地域別構想では、各地域の特性や課題などを踏まえつつ、全体構想との整合を図りながら、地域ごとの目標や分野別の整備方針を定めます。

地域区分については、小学校区を基本とし、村全体のバランスを考慮して設定された旧計画の区分を踏襲し、以下のとおりとします。

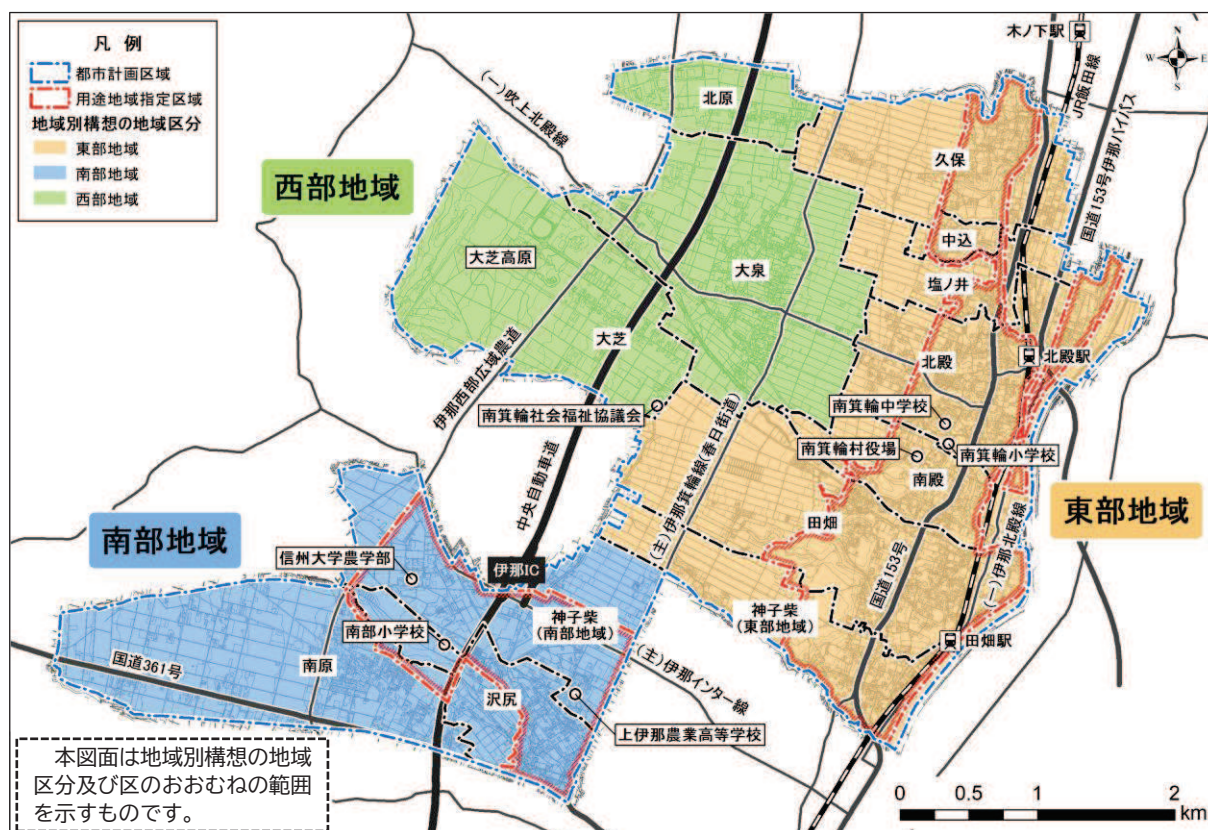


図 5-1 地域別構想の地域区分

表 5-1 地域区分と区の対応関係

地域区分	該当する区
東部地域	久保区、塩ノ井区、中込区、北殿区、南殿区、田畑区、神子柴区の一部※ ※神子柴区のうち、南箕輪小学校区の範囲
南部地域	南原区、沢尻区、神子柴区の一部※ ※神子柴区のうち、南部小学校区の範囲
西部地域	北原区、大泉区、大芝区

5-2. 東部地域

(1) 東部地域の概要

東部地域の用途地域指定区域内は、伊那街道沿い（国道153号沿い）に発展した住宅地であり、殿村八幡宮や新四国霊場などの歴史的・文化的資源が点在しています。村役場周辺には村民センター、図書館、小中学校などの公共施設が集積しており、行政・教育の拠点として機能しています。また、国道153号、国道153号伊那バイパス沿いには商業・業務地が形成されており、天竜川沿岸には北殿工業団地をはじめとする工業地帯が広がり、産業活動の中心地となっています。



東部地域の面積：938.5ha

一方、用途地域指定区域外には優良農地が広がっており、近年では住宅の新築や若年層の定住も進んでいます。

このように、東部地域には行政・教育・商業・産業の各機能が集積する拠点が位置しており、村の中でも特に多機能かつ中核的な役割を担う地域となっています。

(2) 東部地域の特性・課題

国勢調査による平成12年（2000年）から令和2年（2020年）の人口総数・年齢3区分別人口割合の推移をみると、東部地域の人口は増加傾向にあります。また、老年人口割合（65歳以上人口の割合）をみると、平成12年（2000年）の15.7%に対して、令和2年（2020年）には24.9%となり、割合が9.2ポイント増加していることから、高齢化が進行しています。

ハザード区域の指定状況をみると、商業・業務施設が集積する天竜川右岸の国道153号伊那バイパス沿線や、工場が集積する北殿工業団地、田畑工業団地において洪水浸水想定区域（想定最大規模降雨）が指定されています。また、河岸段丘や斜面地において、土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域が指定されています。このため、水害・土砂災害リスクが高い場所における災害防止に向けた整備が求められます。

また、アンケート等では、買い物の行きやすさや道路・交通に関して不満を感じている割合が高いことから、機能性と利便性を高める土地利用の推進や交通機能の強化が求められます。

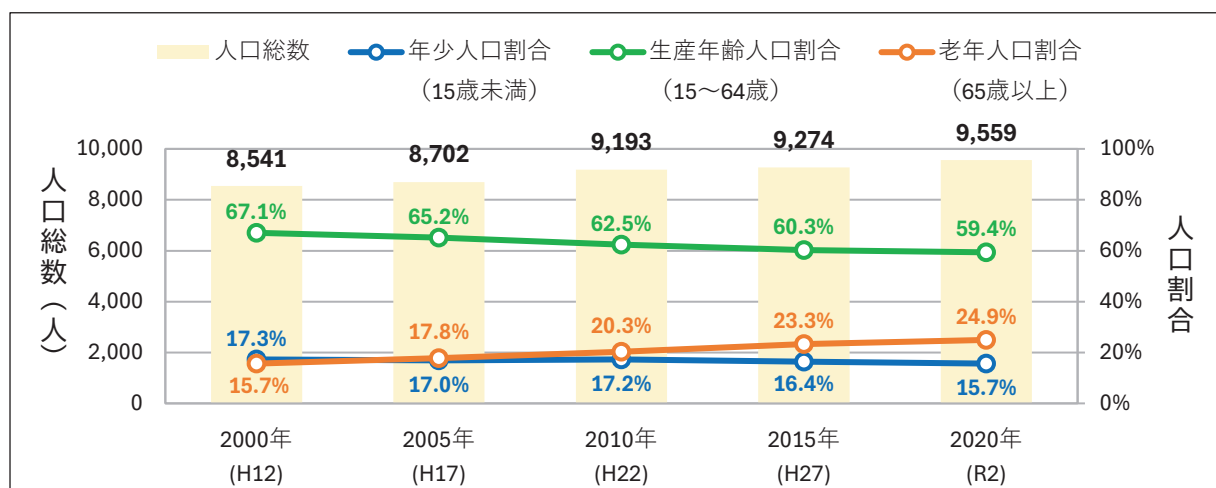


図 5-2 【東部地域】人口総数・年齢3区分別人口割合の推移

出典：総務省統計局「国勢調査小地域集計」再編加工

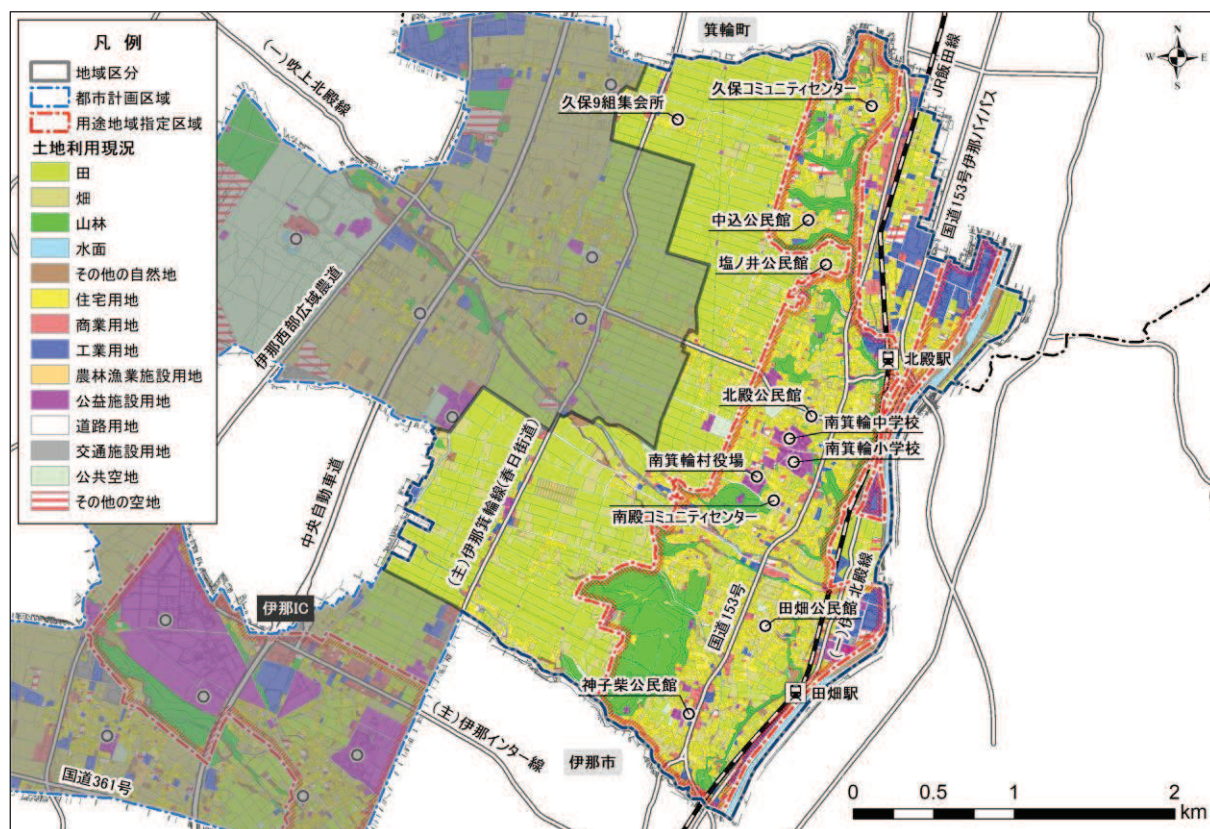


図 5-3 【東部地域】土地利用現況

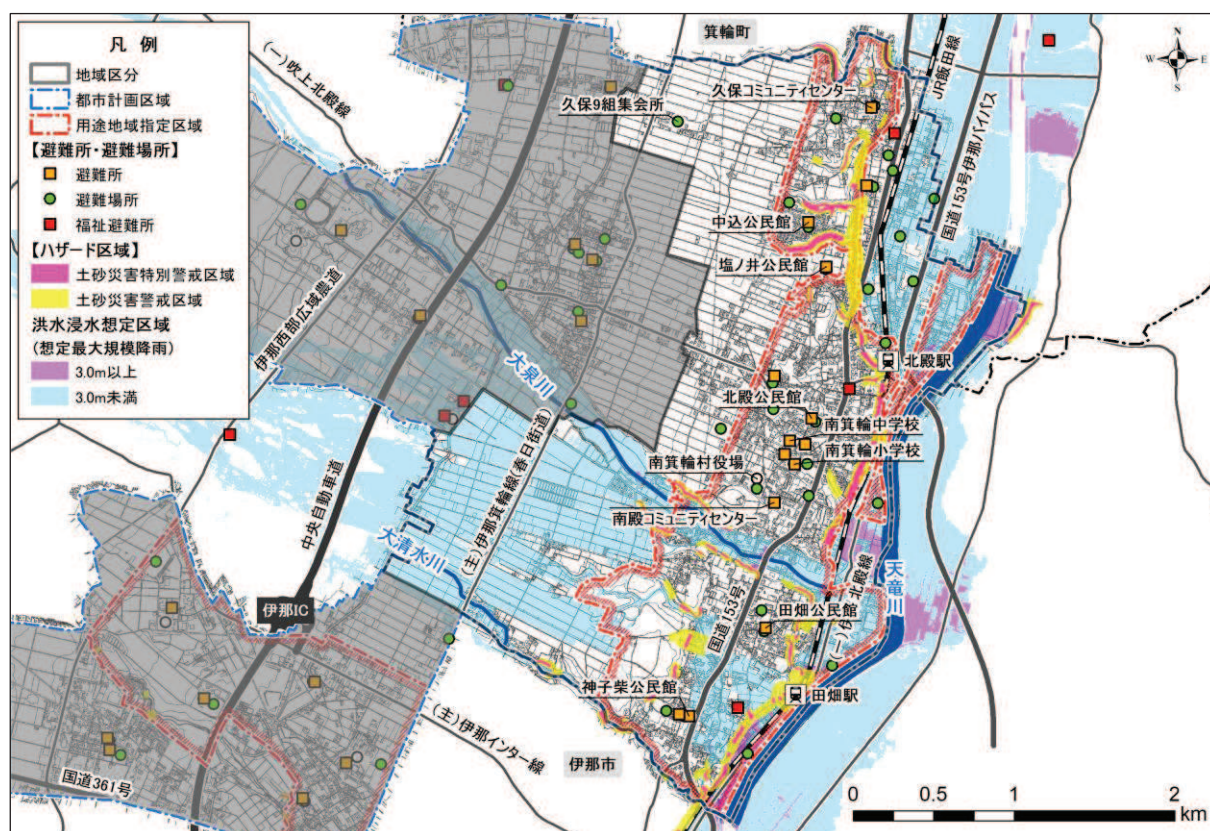
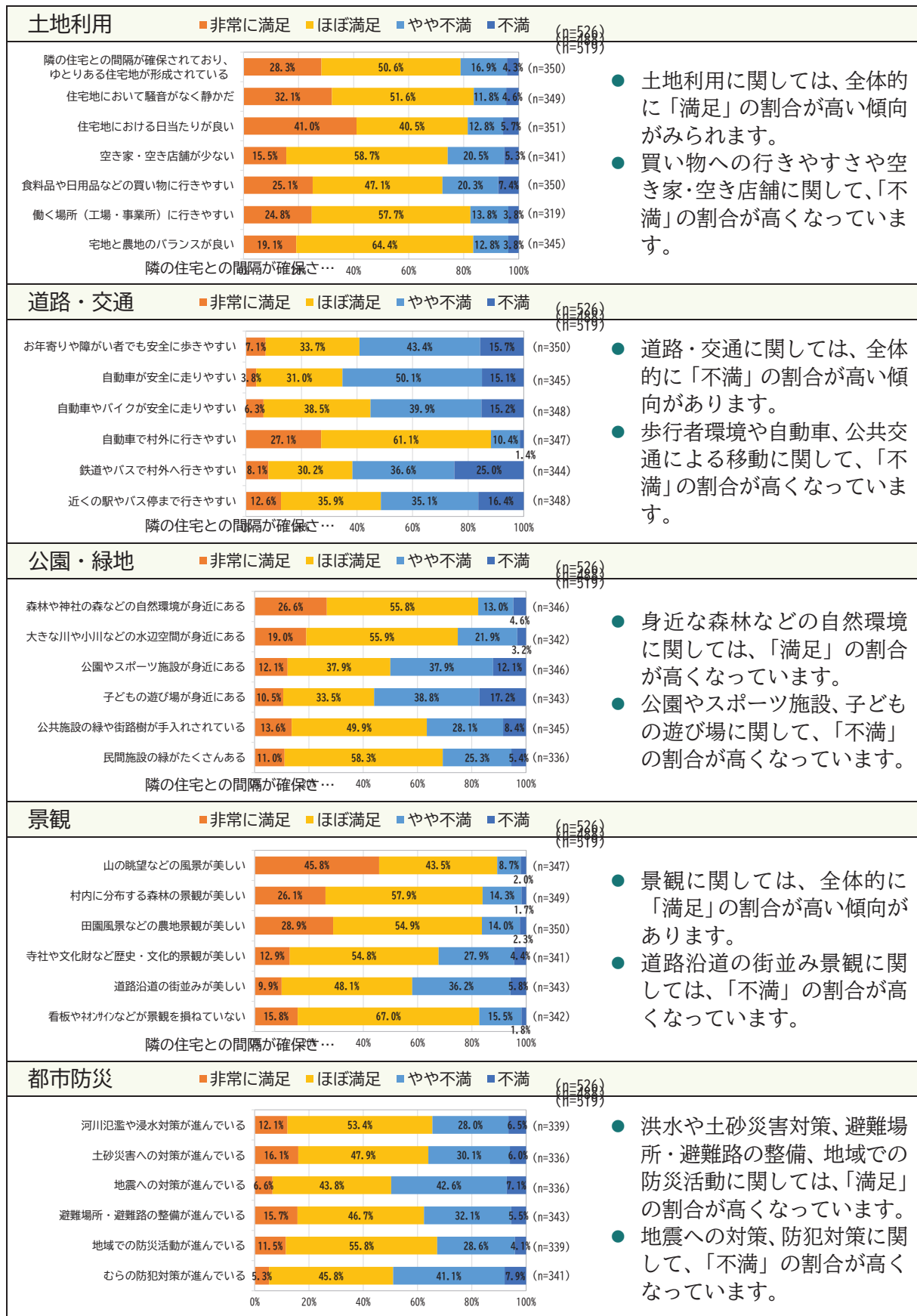


図 5-4 【東部地域】ハザード区域の指定状況

(3) むらづくりに関する住民意向

1) 東部地域の分野別満足度(村民アンケート調査結果)



2) 東部地域の課題（住民ワークショップ結果）

東部地域の住民ワークショップ結果より、地域の魅力や改善すべき点などを踏まえた分野別の課題を要約して整理しました。

表 5-2 【東部地域】住民ワークショップの実施概要

日 時	令和7年5月23日(金) 18:30～20:30
場 所	南箕輪村役場 2階講堂
参加人数	25 名



表 5-3 【東部地域】住民ワークショップ結果による分野別の課題（1/2）

分野	課題
土地利用	社会環境・居住環境 ● 本村だけでは生活が成り立たないため、伊那市や箕輪町などの周辺自治体との連携の必要性が指摘されています。 ● 区の役員のなり手不足や、高齢化の進行に伴う区組織運営の困難化が課題として挙げられています。 ● 高齢者などの買物難民への対応が求められています。 ● 空き家の増加が懸念されており、空き家の適正管理・活用が求められています。 ● 相続時の土地評価額が実態と乖離しており、田畑の相続税支払いが困難であるという問題が挙げられています。 農地 ● 耕作者の減少による遊休農地の増加や、農地・森林の放置による荒廃が懸念されており、農地の大規模化や虫食いの開発への対策が求められています。
道路・交通施設整備	道路網 ● 緊急車両の通行が困難な幅員が狭い道路が多いこと、道路が複雑で分かりにくいこと、東西を結ぶ主要道路の不足が指摘されています。また、河岸段丘の上下を結ぶ道路整備も必要とされています。 ● 交通量が多いにも関わらず歩道が未整備で危険な箇所が多く、駅周辺や公共施設へのアクセス道路の改善が求められています。 ● 未整備となっている都市計画道路に関して、非現実的な計画が残存していることについて問題視されています。

表 5-4 【東部地域】住民ワークショップ結果による分野別の課題（2/2）

分野	課題
道路・交通施設整備	交通利便性・安全性 ● 国道 153 号の主要交差点（塩ノ井、北殿など）において右折レーンなどの付加車線がないため、交通の円滑な流れを妨げていることが問題視されています。 ● 通学路の安全性（街灯が少ない、歩道がない、車両の速度超過など）が懸念されており、安全確保に向けた対応が求められています。 ● 高齢者の交通手段や高校生の交通の便の悪さといった公共交通の課題があり、改善が求められています。 ● 明神橋の片側通行（一方通行規制）による不便さが指摘されています。 渋滞対策 ● 国道 153 号や(主)伊那箕輪線の主要交差点において、朝夕に渋滞が発生しており、対策が求められています。
自然環境保全と公園・緑地整備	水辺・森林・河川環境 ● 河川沿いの立ち木・雑草の繁茂やゴミの流入、河岸段丘の竹藪などについて、適正な管理や整備が必要とされています。 ● 水場や湧き水などのマップを作成し、保全・活用すべき水源の情報を発信する必要性が指摘されています。 公園・緑地 ● 公園の遊具の老朽化への対応や利用促進が課題であり、特に防災面での公園の不足も指摘されています。 ● 森林や自然を憩いの場や遊び場として活用する取組などが求められています。
景観形成	田園景観や眺望 ● 地域の魅力として田園風景や南アルプス、中央アルプスの眺望などが挙げられており、地域の財産である景観の保全が求められています。
都市防災	水害・土砂災害リスク ● 河川の流下能力の不足や水路の未整備による水害リスクが指摘されており、水害時の避難路確保や天竜川の流下能力の向上が求められています。 ● 河岸段丘における土砂災害の発生が懸念されており、土砂災害防止に向けた整備が求められています。 ● 災害リスクが高い場所における土地利用や建物の規制導入の必要性が指摘されています。 避難所の機能・避難路の安全性 ● 福祉避難所の不足、活断層上に立地する避難所の震災リスク、避難所の機能（電源、備蓄）不足など、避難所に関する課題が挙げられています。 ● 幅員が狭く危険な避難路への対応や、避難経路の明確化が求められています。 防災意識・組織連携 ● 住民間の付き合いの希薄化による災害時の助け合いへの支障、自主防災組織と区の連携不足、住民の危機意識の低さなど、防災意識の醸成と組織連携に課題があります。

(4) 東部地域の将来像

東部地域の特性・課題、住民意向を踏まえ、東部地域の将来像を以下のとおり定めます。

東部地域の将来像	
自然と歴史に育まれる、多機能でにぎわいある東部地域	
天竜川の豊かな自然や伊那街道の歴史的景観といった地域資源を大切にしながら、行政・教育・商業・産業などの多様な機能が集積する村の中核としての役割を強化し、利便性と交流のにぎわいが調和する魅力的な地域づくりを目指します。	
将来像の構成要素 ● 自然・歴史 … 天竜川、伊那街道、文化資源 ● 機能性 …… 行政、教育、商業、産業の集積 ● 拠点性 …… 村の中核、複合的役割 ● にぎわい …… 都市的利便性、交流、活気	

(5) 東部地域の整備方針

東部地域の将来像を実現するための分野別の整備方針を以下のとおり定めます。

表 5-5 東部地域の整備方針 (1/2)

分野	整備方針
土地利用	● 拠点機能の連携による中核的な土地利用の形成 行政、教育、商業、産業など多様な機能が集積する特性を活かし、それぞれの機能が連携・補完しながら調和する土地利用を進め、中核的な拠点としての機能性と利便性を高める土地利用を推進します。 ● 都市機能と調和した良好な住環境の確保 都市的な利便性を享受しつつ、静穏性や快適性のある住環境を確保するため、優良農地の保全を図りながら、多様な世代が安心して暮らし続けられる定住環境の整備を推進します。 ● 公共施設の再編と未利用地の有効活用 空き家や未利用地の利活用を図るとともに、老朽化した公共施設の再編・複合化を検討し、土地の有効活用と持続可能なコンパクトな居住環境の形成を図ります。
道路・交通施設整備	● 幹線道路の整備による広域的な交通機能の強化 国道 153 号や(主)伊那箕輪線をはじめとした主要幹線道路の交差点改良などを進め、広域交通網との接続性を高め、中核地域にふさわしい交通機能の強化を図ります。 ● 北殿駅周辺の交通拠点機能の向上 北殿駅及び周辺の交通結節点整備や待合スペースの改善などを進め、鉄道・バス間の乗り換え利便性の向上を通じて、公共交通の利用促進を図ります。 ● 通学・生活動線に配慮した歩行空間の整備 通学路や生活道路において、歩道の整備や視認性向上、自転車の安全走行空間の確保を進め、安全で快適な移動環境の形成を図ります。

表 5-6 東部地域の整備方針 (2/2)

分野	整備方針
自然環境保全と公園・緑地整備	● 天竜川を軸とした自然環境の保全と活用 天竜川やその周辺の自然環境を保全しつつ、親水施設や散策空間の整備を通じて、地域資源としての自然の活用と景観・治水の両立を図ります。 ● 既存公園の再整備による多世代対応型空間の創出 既存の公園・緑地について、遊具や設備の更新、防災機能の強化、バリアフリー化を進め、こどもから高齢者まで多世代が快適に利用できる空間整備を推進します。 ● 緑地ネットワークによる景観・交流環境の形成 街路樹や緑道、公園などを連携させた緑のネットワークを構築し、良好な景観の形成とあわせて、住民交流や環境学習の場としての活用を図ります。
景観形成	● 伊那街道や神子柴遺跡の歴史的資源を活かした景観の保全 伊那街道沿いに残る伝統的な街並みや建造物、神子柴遺跡については、歴史的資源の保全活動に取り組む団体と連携・協力しながら、保全・活用を図ります。また、地域の歴史や文化が感じられる景観の形成と魅力発信を図ります。 ● 幹線道路沿道の景観形成とデザイン誘導 主要幹線道路沿いの建築物や看板、植栽等に景観的配慮を促し、統一感ある街並みの形成と地域イメージの向上を図ります。 ● 住民参加による景観づくりの推進 景観育成住民協定の導入など、地域の魅力を住民自ら育む仕組みづくりを検討し、地域住民や景観保全活動を行っている各団体と行政の協働による景観形成を推進します。
都市防災	● 天竜川流域の水害・土砂災害対策の強化 河川や斜面の防災インフラ整備、危険箇所のモニタリング強化などを通じて、自然災害への備えと地域の安全性向上を図ります。 ● 避難施設・避難路の安全性と機能性の向上 避難所の耐震化やバリアフリー対応、非常用電源の確保、避難経路の安全性向上を進め、誰もが安心して避難できる体制整備を推進します。 ● 地域と連携した防災体制の充実 自主防災組織の活動支援や防災訓練の実施、情報伝達体制の整備を通じて、災害時の地域連携と初動対応力の向上を図ります。
上下水道整備	● 上下水道施設の維持管理と機能更新の計画的推進 上下水道の管路や施設の老朽化に対応するため、計画的な点検・修繕・更新を行い、漏水や管路破損などのリスク低減を図ります。また、耐震化や災害時対応力の強化を図り、平常時・非常時を問わず安定的に水の供給と排水処理が行える体制を確保します。 ● 公共下水道区域外における生活排水処理の推進 公共下水道事業計画区域外の地域においては、個人設置型浄化槽の設置により生活排水を適切に処理する取組を推進し、衛生的な生活環境の確保に努めます。

(6) 東部地域の整備方針図

前述の整備方針を踏まえ、「東部地域の整備方針図」を以下のとおり定めます。

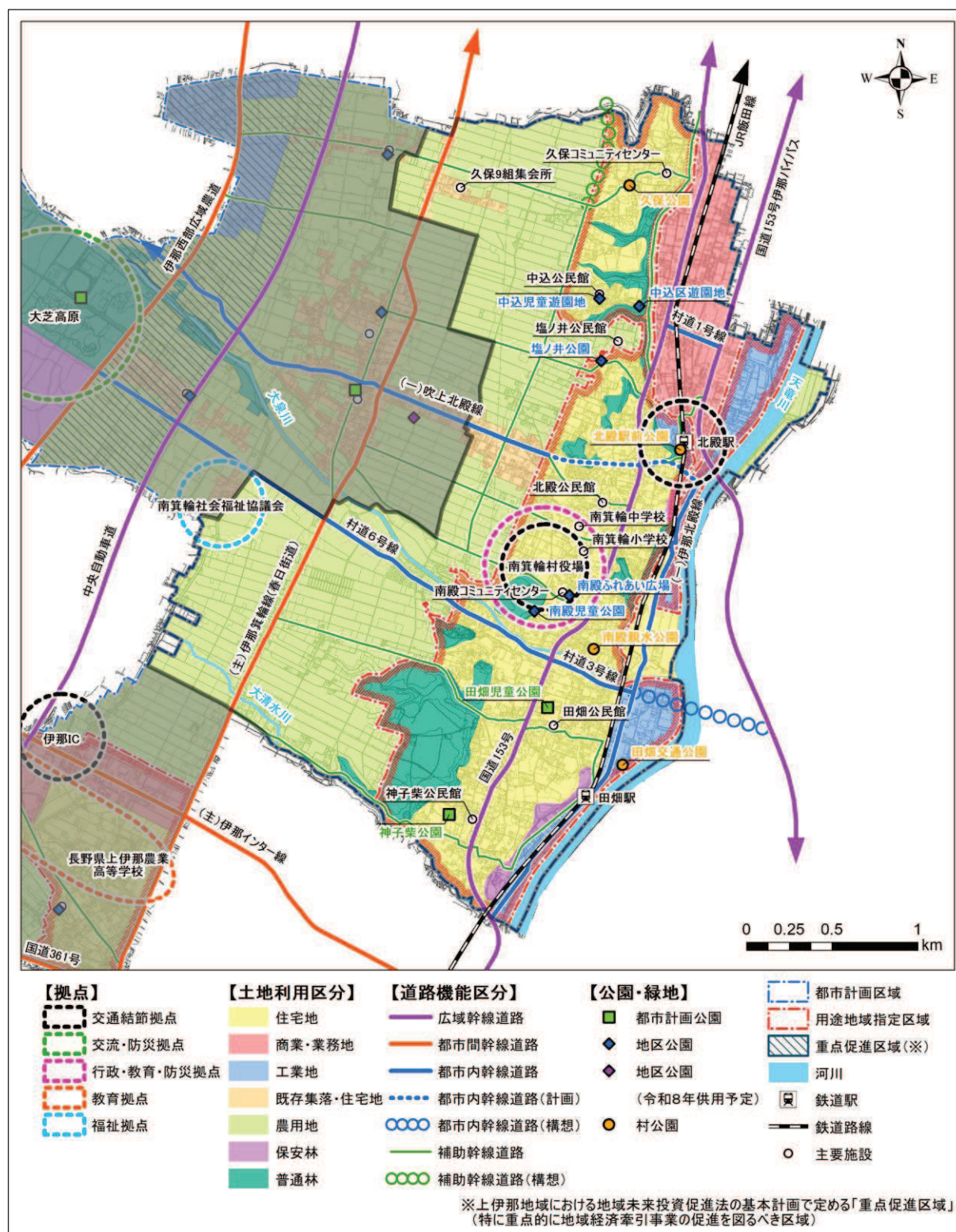


図 5-5 東部地域の整備方針図

5-3. 南部地域

(1) 南部地域の概要

南部地域の用途地域指定区域内には、信州大学農学部や上伊那農業高等学校といった教育機関が立地しており、教育拠点としての性格を有しています。また、中央自動車道の伊那ICが位置し、(主)伊那インター線沿いには商業・業務地が形成されており、村内外との人や物の流れが活発で、広域交通の要所として交通アクセスに優れた地域でもあります。

一方、用途地域指定区域外の国道361号沿いには優良農地が広がっており、農村景観が維持されているとともに、近年では住宅の新築や若年層の定住もみられます。

このように、南部地域には専門的な教育を担う拠点が位置し、農村的な環境と生活利便性のバランスが取れた地域として、今後の発展が期待される地域です。



南部地域の面積：534.9ha

(2) 南部地域の特性・課題

国勢調査による平成12年(2000年)から令和2年(2020年)の人口総数・年齢3区分別人口割合の推移をみると、南部地域の人口は増加傾向にあります。また、老年人口割合(65歳以上人口の割合)をみると、平成12年(2000年)の11.3%に対して、令和2年(2020年)には17.7%となり、割合が6.4ポイント増加していることから、高齢化が進行しています。

ハザード区域の指定状況をみると、大清水川の洪水浸水想定区域(想定最大規模降雨)や土砂災害警戒区域が指定されている箇所が一部にみられますが、用途地域指定区域内の住宅地などは比較的土砂災害、洪水災害リスクが低い状況です。

村民アンケート等では、買い物への行きやすさや道路交通に関して不満を感じている割合が高いことから、生活に根ざした公共交通・拠点整備の推進が求められます。

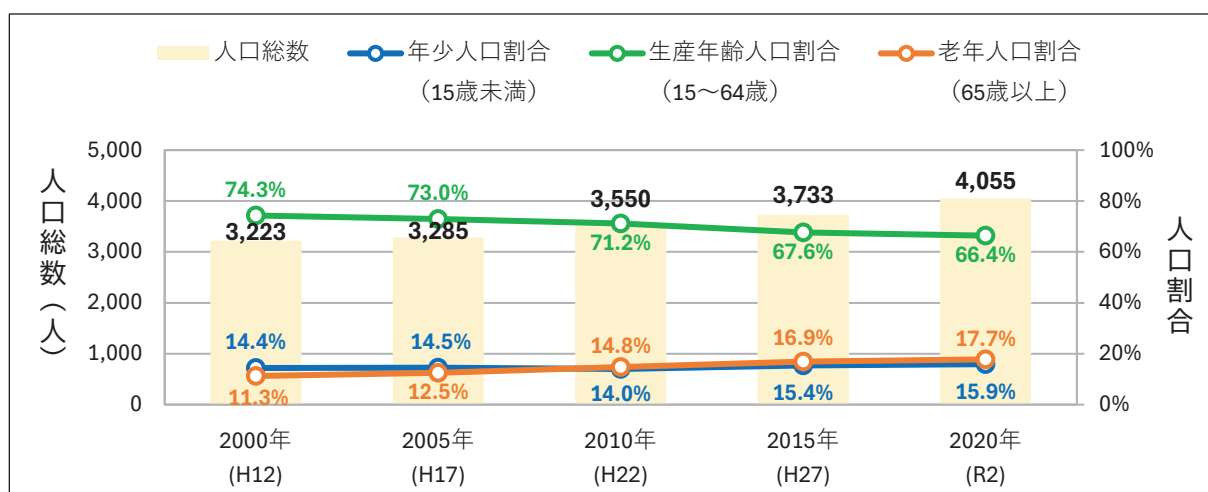


図 5-6 【南部地域】人口総数・年齢3区分別人口割合の推移

出典：総務省統計局「国勢調査小地域集計」再編加工

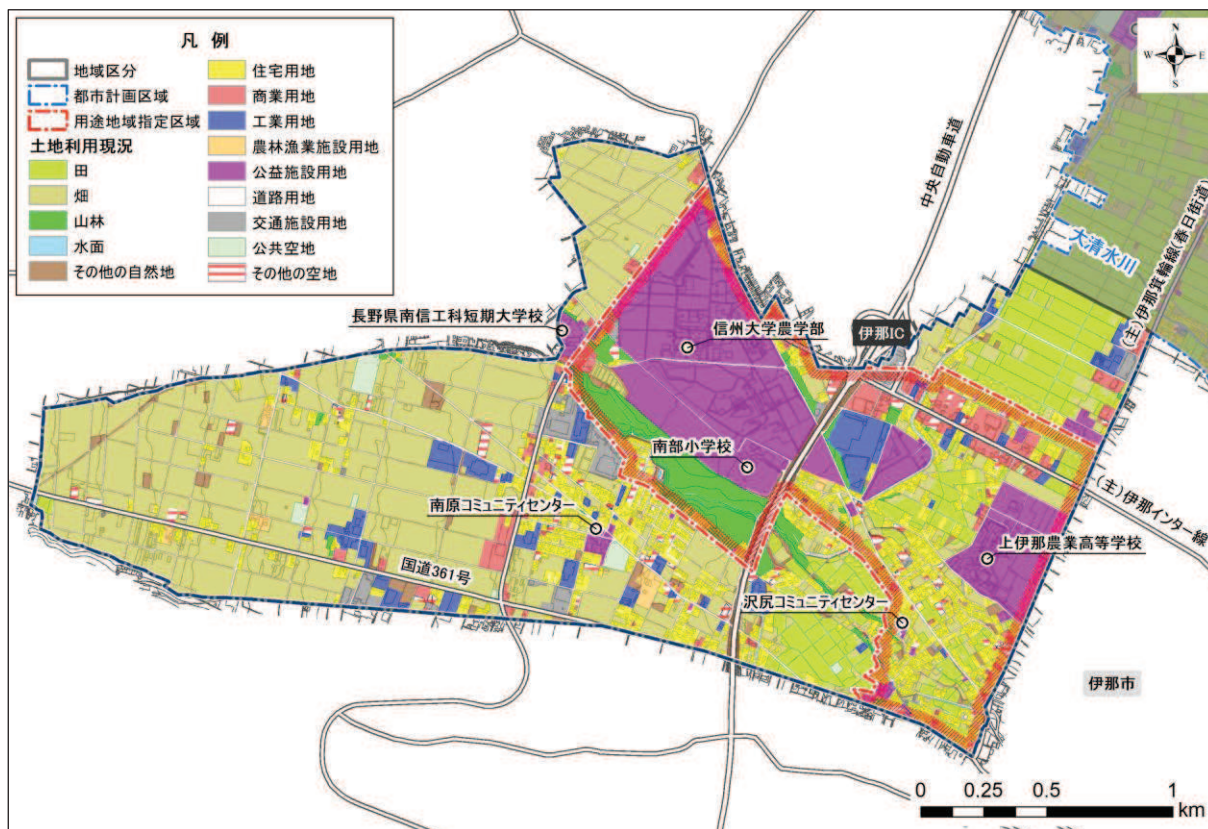


図 5-7 【南部地域】土地利用現況

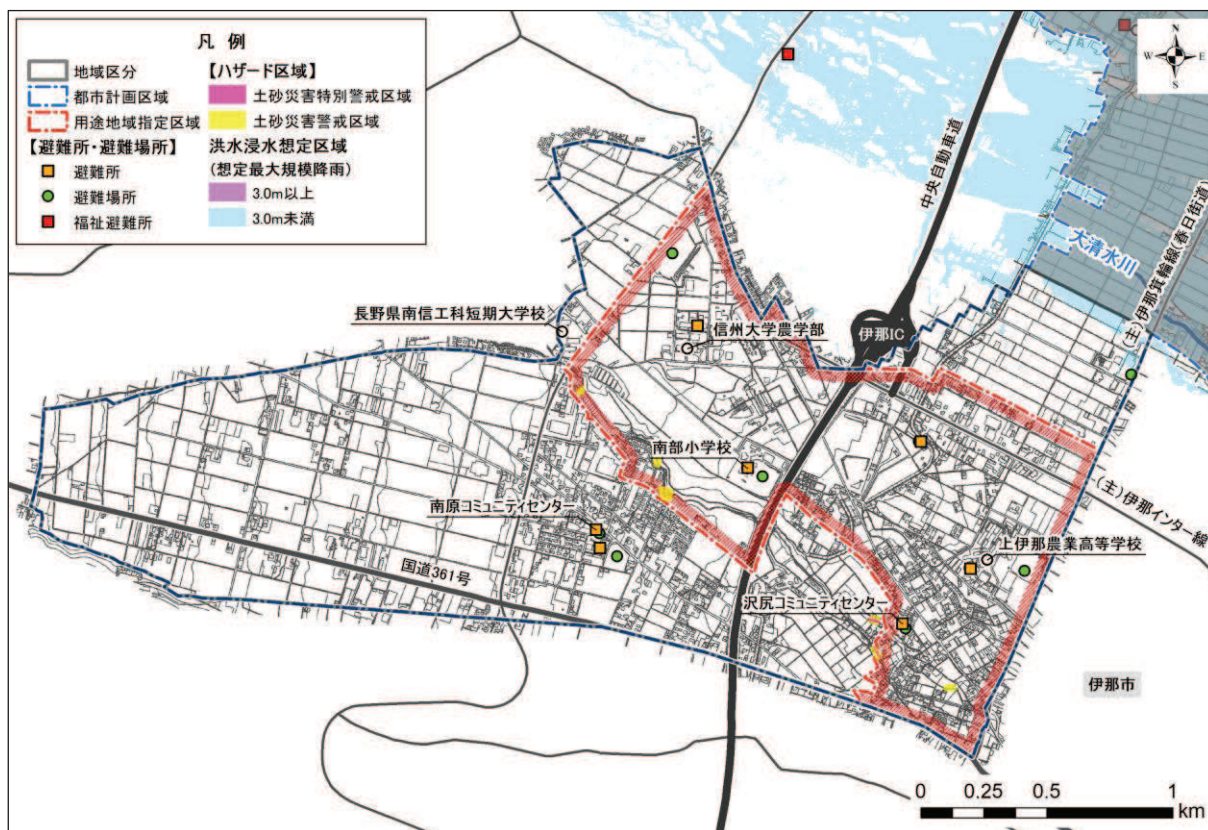
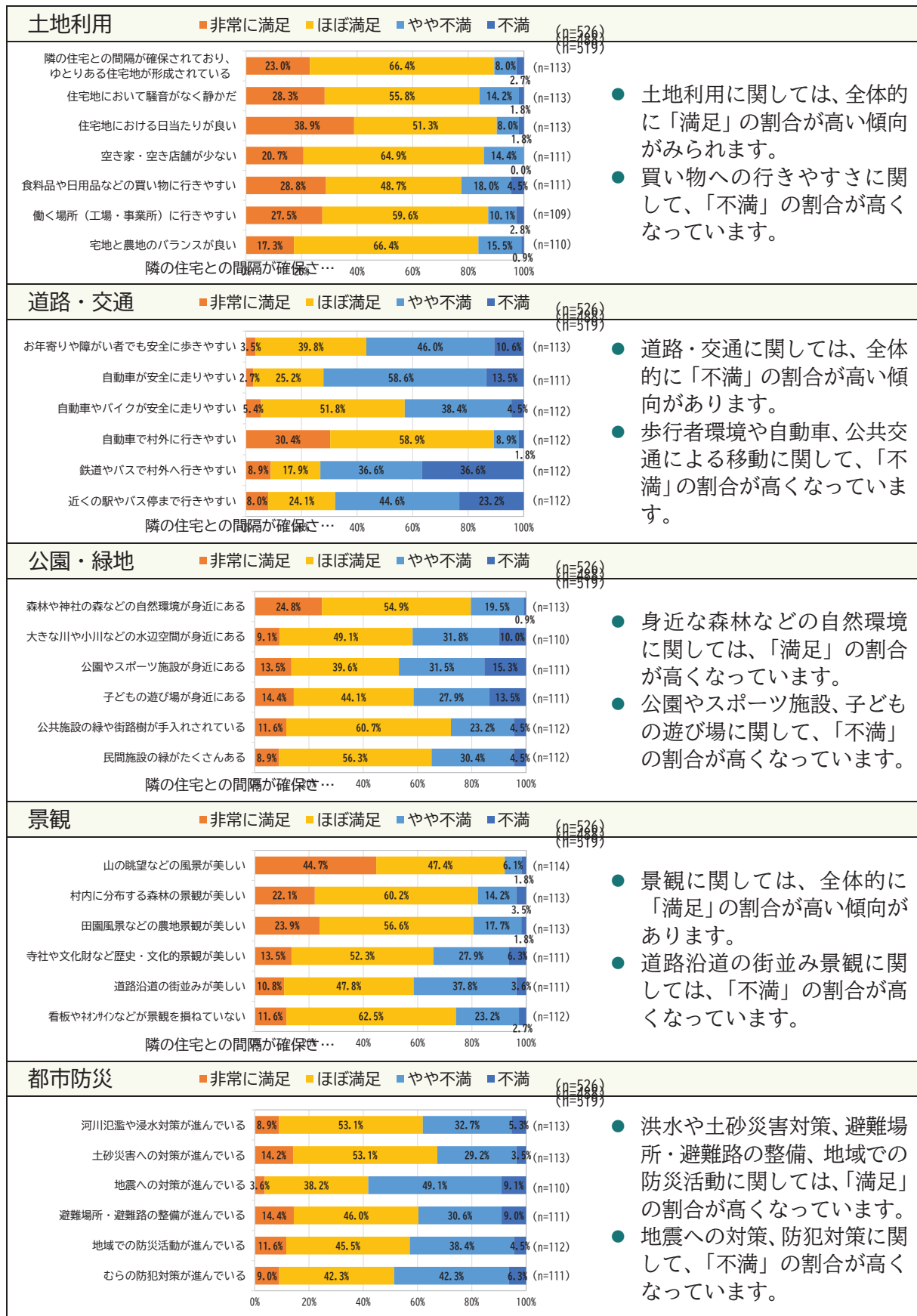


図 5-8 【南部地域】ハザード区域の指定状況

(3) むらづくりに関する住民意向

1) 南部地域の分野別満足度（村民アンケート調査）



2) 南部地域の課題（住民ワークショップ結果）

南部地域の住民ワークショップ結果より、地域の魅力や改善すべき点などを踏まえた分野別の課題を要約して整理しました。

表 5-7 【南部地域】住民ワークショップの実施概要

日 時	令和7年5月22日(木) 18:30～20:30
場 所	南原コミュニティセンター
参加人数	10 名



表 5-8 【南部地域】住民ワークショップ結果による分野別の課題（1/2）

分野	課題
土地利用	社会環境・居住環境 ● 人口増加に対して、区の役員のなり手不足や住民間の付き合いの希薄化などが指摘されています。 ● 身近な医療機関の不足やスーパーへのアクセスが不便で、自家用車がなければ生活がしづらい点が課題として挙げられています。 ● 山に近い地域では熊が出没しており、鳥獣被害への対策が求められています。 農地 ● 人口増加に伴い、虫食いの的に農地が宅地へ転用されているため、計画的な土地利用の推進が求められています。
道路・交通施設整備	道路網 ● 生活道路の幅員が狭い箇所が多く、拡幅や舗装修繕が求められています。 交通利便性・安全性 ● 国道 361 号や伊那西部広域農道、村道 8 号線、村道 10 号線などにおいて歩道の未整備や劣化がみられ、歩行者や通学路の安全確保に向けた整備が求められています。 ● 公共交通の便が悪く、特に伊那市への移動手段が限られている点が課題として指摘されています。 ● 三叉路の多さ、幹線道路での車両の速度超過、通学路の横断歩道未設置、交差点の見通しの悪さなど、安全面での課題が指摘されています。 渋滞対策 ● 伊那西部広域農道などで、朝夕に渋滞が発生しており、対策が求められています。

表 5-9 【南部地域】住民ワークショップ結果による分野別の課題（2/2）

分野	課題
公園・自然環境・緑地保全と整備	身近な森林 ● 身近な森林があり、こどもが自然とふれあえる環境の維持・充実が求められています。
景観形成	田園景観の保全 ● 人口増加に伴い、虫食いの農地が宅地に転用されることで、田園景観の保全への影響や農家への負担増加が懸念されています。
都市防災	水害・土砂災害リスク ● 国道 361 号の側溝が整備されていない場所において、大雨時に道路が冠水するなど、排水対策が課題として挙げられています。 ● 沢尻コミュニティセンター周辺の地盤が脆弱であるため、土砂災害の発生が懸念されており、対策が求められています。 防災意識・ライフライン ● 地域全体の防災意識が低いなど、防災意識の醸成が課題として挙げられています。 ● 住宅地の範囲が広がることで、消火活動への影響（消火ホースが届かないなど）が課題として挙げられています。

(4) 南部地域の将来像

南部地域の特性・課題、住民意向を踏まえ、南部地域の将来像を以下のとおり定めます。

南部地域の将来像	
農と学びに育まれ、暮らしと交流が広がる南部地域	
信州大学農学部や上伊那農業高等学校などの教育・研究機関と、農地や里山が織りなす豊かな農村環境が共存する地域特性を活かし、農業・教育・暮らしが調和する中で、人と人とのつながりや地域内外の交流が自然に生まれ、広がる地域づくりを目指します。	
将来像の構成要素	
● 農的環境 ……………	農地、農村景観
● 教育・研究 ……………	信州大学農学部、上伊那農業高等学校
● 暮らし・住環境 ……	定住、日常生活、安心感
● 交流 ……………	地域内外の人のつながり、活動の広がり

(5) 南部地域の整備方針

南部地域の将来像を実現するための分野別の整備方針を以下のとおり定めます。

表 5-10 南部地域の整備方針 (1/2)

分野	整備方針
土地利用	● 教育・研究を核とした拠点形成の推進 信州大学農学部や上伊那農業高等学校といった高等教育・研究機関が集積する特性を活かし、教育・農業・地域活動が連携する教育拠点の形成を推進します。 ● 農と共生する定住環境の整備 優良農地や自然景観と調和する土地利用を進めるとともに、既存集落や生活圏に配慮した宅地整備を行い、定住促進につながる住環境の確保を図ります。 ● 空き家・未利用地の有効活用と農空間の保全 空き家や未利用地の利活用を進めつつ、農業と教育の連携を促進する土地利用の最適化と農空間の保全を図ります。
道路・交通施設整備	● 広域道路との連携による利便性向上 伊那 IC や国道 361 号などへのアクセス改善を図り、通勤・通学・物流・観光に対応した広域的な交通ネットワークの形成を推進します。 ● 生活に根ざした公共交通・拠点整備の推進 通学・通院・買物などの生活移動を支える公共交通の再編や待合スペースの環境整備を通じて、日常の移動利便性の向上を図ります。 ● 地域交通・農業活動を支える道路整備の推進 農業用道路や生活道路など、地域生活・産業活動を支える道路の改良や安全対策を進め、安全かつ機能的な道路環境の整備を推進します。

表 5-11 南部地域の整備方針（2/2）

分野	整備方針
自然環境保全と公園・緑地整備	● 農村景観と里山環境の保全・活用 里山などの農村景観や自然環境を保全し、環境教育や体験型活動と結びつけた地域資源としての活用を図ります。 ● 既存公園の再整備による多世代対応型空間の創出 既存の公園・緑地について、遊具や設備の更新、防災機能の強化、バリアフリー化を進め、こどもから高齢者まで多世代が快適に利用できる空間整備を推進します。 ● 環境学習・交流機能を持つ緑の拠点づくり 教育施設や農地と連携した体験・学習の場として活用できる緑の空間を整備し、交流や学びの拠点づくりを推進します。
景観形成	● 文教地区にふさわしい景観の形成 信州大学農学部周辺を中心に、文教施設と調和する落ち着いた景観形成を図り、教育拠点としての品格ある環境形成を推進します。 ● 農村景観と調和する建築・開発の誘導 農村らしい景観の継承を図るため、宅地や施設の配置・色彩・形状に配慮した開発誘導により、地域との調和を促進します。 ● 地域主体の景観保全・育成活動の支援 「南原地区まちづくり景観形成住民協定」に基づく地域主体の景観づくりの取組や三風の会による看板改善活動等への支援を通じて、景観の魅力と価値を守り育てる取組を推進します。
都市防災	● 水害・土砂災害等に対応した事前防災の強化 河川・用水路・斜面などの防災インフラ整備などを進め、農地や住宅を守るとともに、気候変動にも対応した事前防災の強化を図ります。 ● 人口動向に対応した避難施設と避難路の整備 人口動向を踏まえつつ、避難所の適正配置や避難路の整備を行い、すべての住民が迅速かつ安全に避難できる体制整備を推進します。 ● 地域密着型の防災体制の構築 住民主体の防災訓練・啓発活動を通じて、地域に根ざした防災力の強化を図ります。
上下水道整備	● 上下水道施設の維持管理と機能更新の計画的推進 上下水道の管路や施設の老朽化に対応するため、計画的な点検・修繕・更新を行い、漏水や管路破損などのリスク低減を図ります。また、耐震化や災害時対応力の強化を図り、平常時・非常時を問わず安定的に水の供給と排水処理が行える体制を確保します。 ● 公共下水道区域外における生活排水処理の推進 公共下水道事業計画区域外の地域においては、個人設置型浄化槽の設置により生活排水を適切に処理する取組を推進し、衛生的な生活環境の確保に努めます。

(6) 南部地域の整備方針図

前述の整備方針を踏まえ、「南部地域の整備方針図」を以下のとおり定めます。

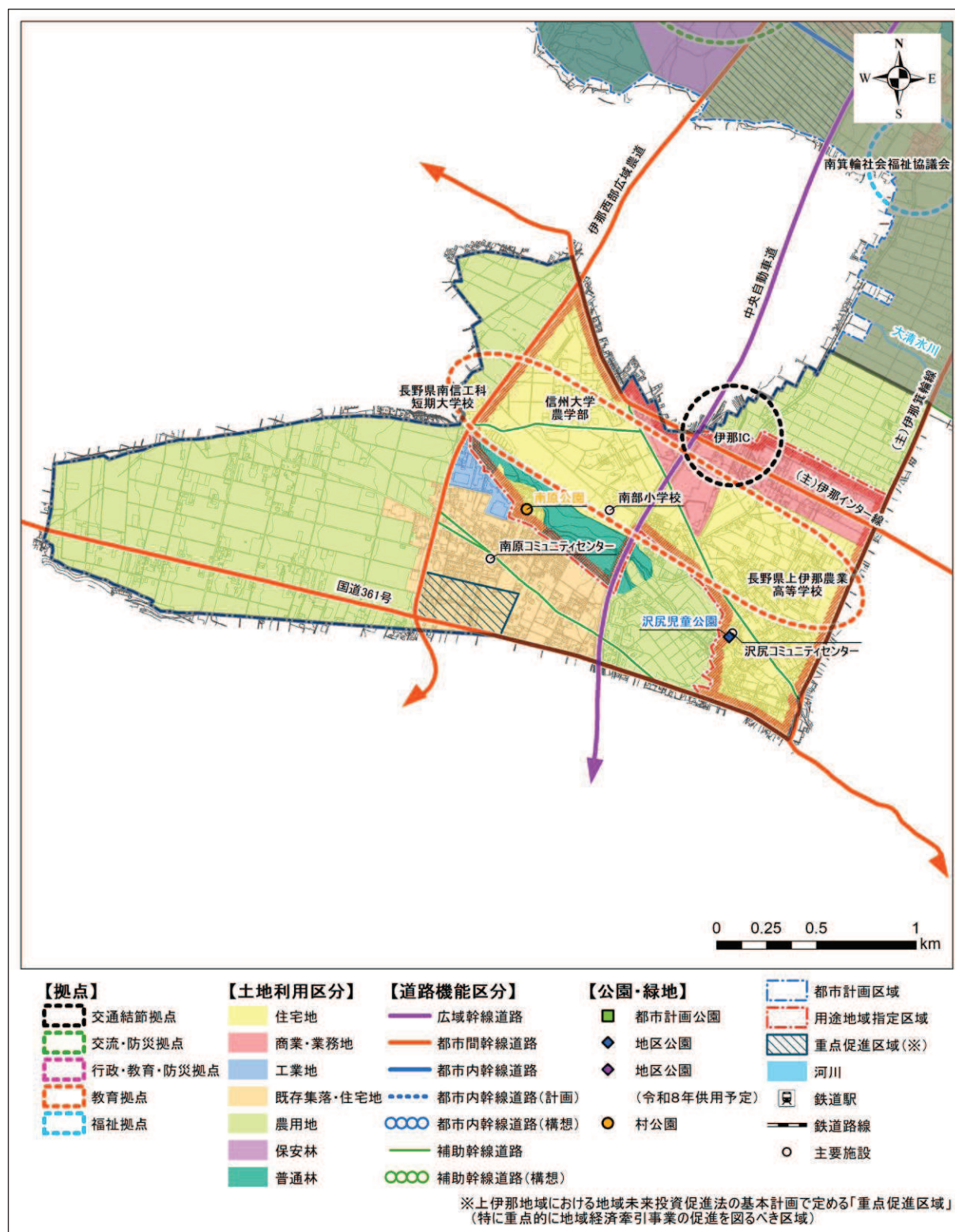


図 5-9 南部地域の整備方針図

5-4. 西部地域

(1) 西部地域の概要

西部地域は、森林や優良農地などの豊かな自然と調和した暮らしが営まれている地域であり、大芝高原には、観光・レクリエーション・交流を支える施設が集積し、災害時には広域防災拠点としての役割も果たすなど、地域の魅力発信や交流人口の増加に寄与しています。また、地域の北側には北原工業団地が立地しており、工場の集積により本村の産業活動を支える拠点となっています。さらに、地域の南側には社会福祉協議会を中心とした福祉施設が集積しており、地域福祉を支える拠点となっています。



西部地域の面積：605.6ha

このように、西部地域には観光・防災・産業・福祉の各機能が集積する拠点が位置しており、村の持続可能な発展に向けて多面的な役割を担う地域となっています。

(2) 西部地域の特性・課題

国勢調査による平成12年（2000年）から令和2年（2020年）の人口総数・年齢3区分別人口割合の推移をみると、西部地域の人口は増加傾向にあります。また、老年人口割合（65歳以上人口の割合）をみると、平成12年（2000年）の26.1%に対して、令和2年（2020年）には28.6%となり、割合が2.5ポイント増加しているものの、おおむね20年前の人口構成比が維持されています。その中で、ワークショップ等では、人口規模に対して道路の幅員が狭い、東西方向の交通の道路交通の不便さといった道路網の課題があげられました。

また、村民アンケート等では、道路沿道の街並み景観に関しては、不満を感じている割合が高いことから、統一感のあるデザインの誘導等が求められます。

ハザード区域の指定状況をみると、大泉川の沿岸などで洪水浸水想定区域（想定最大規模降雨）の指定がみられます。また、土砂災害警戒区域は指定されておらず、他の地域と比較すると、土砂災害リスクは低い状況です。

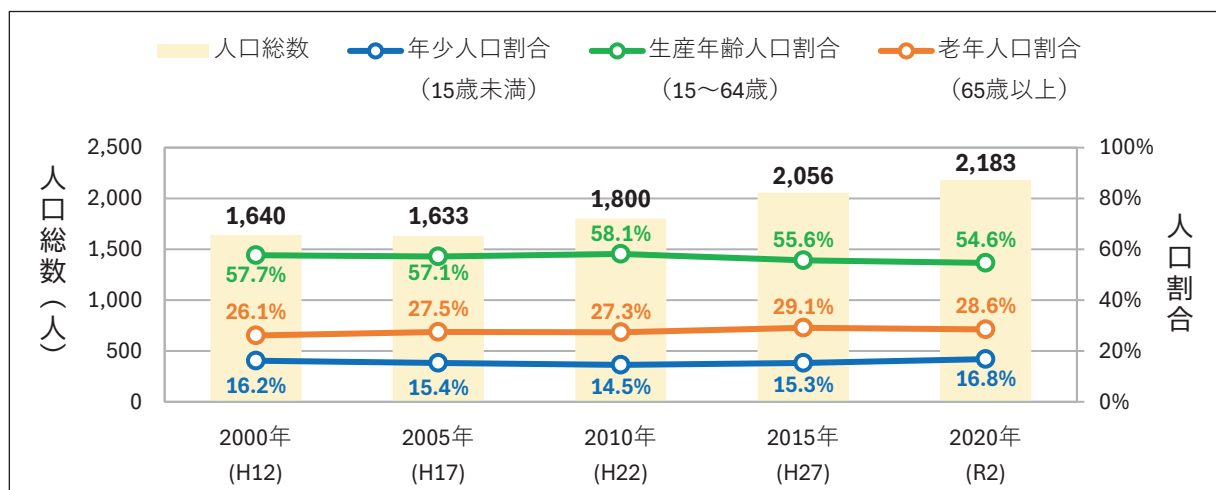


図 5-10 【西部地域】人口総数・年齢3区分別人口割合の推移

出典：総務省統計局「国勢調査小地域集計」再編加工

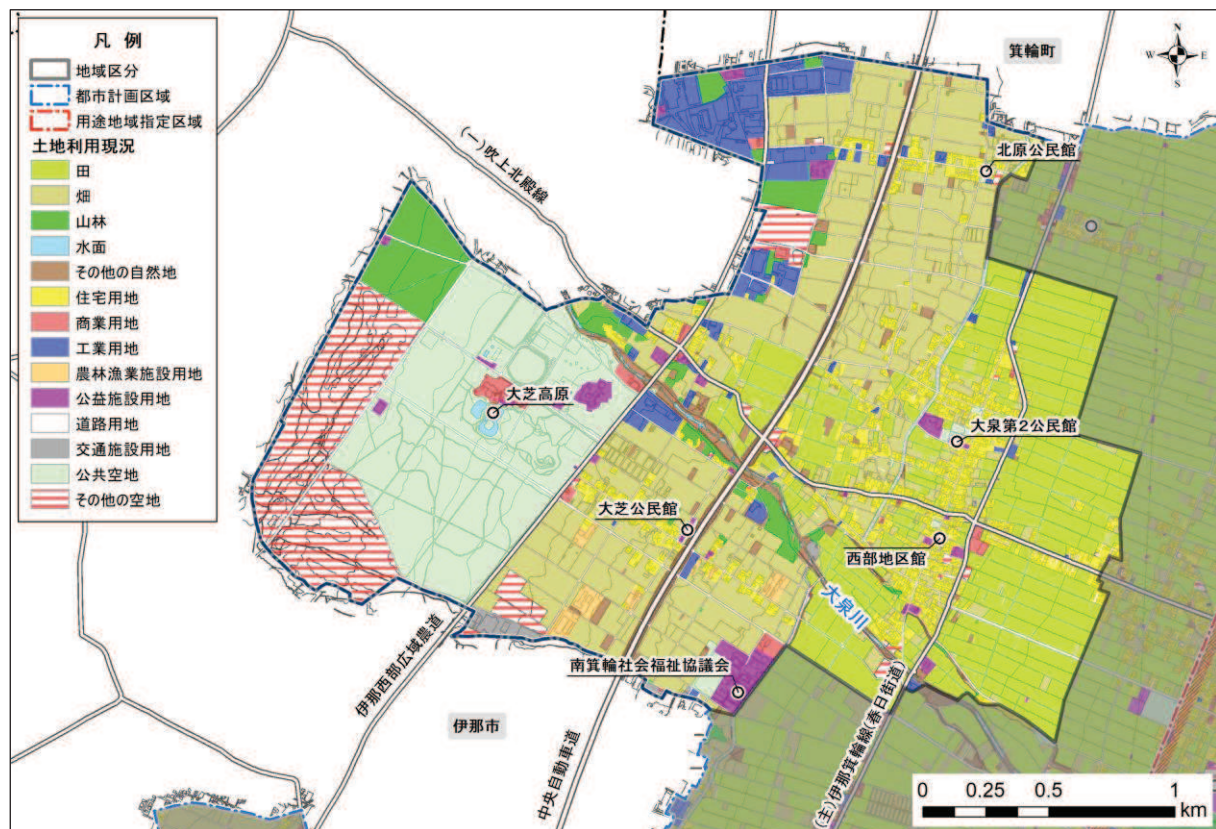


図 5-11 【西部地域】土地利用現況

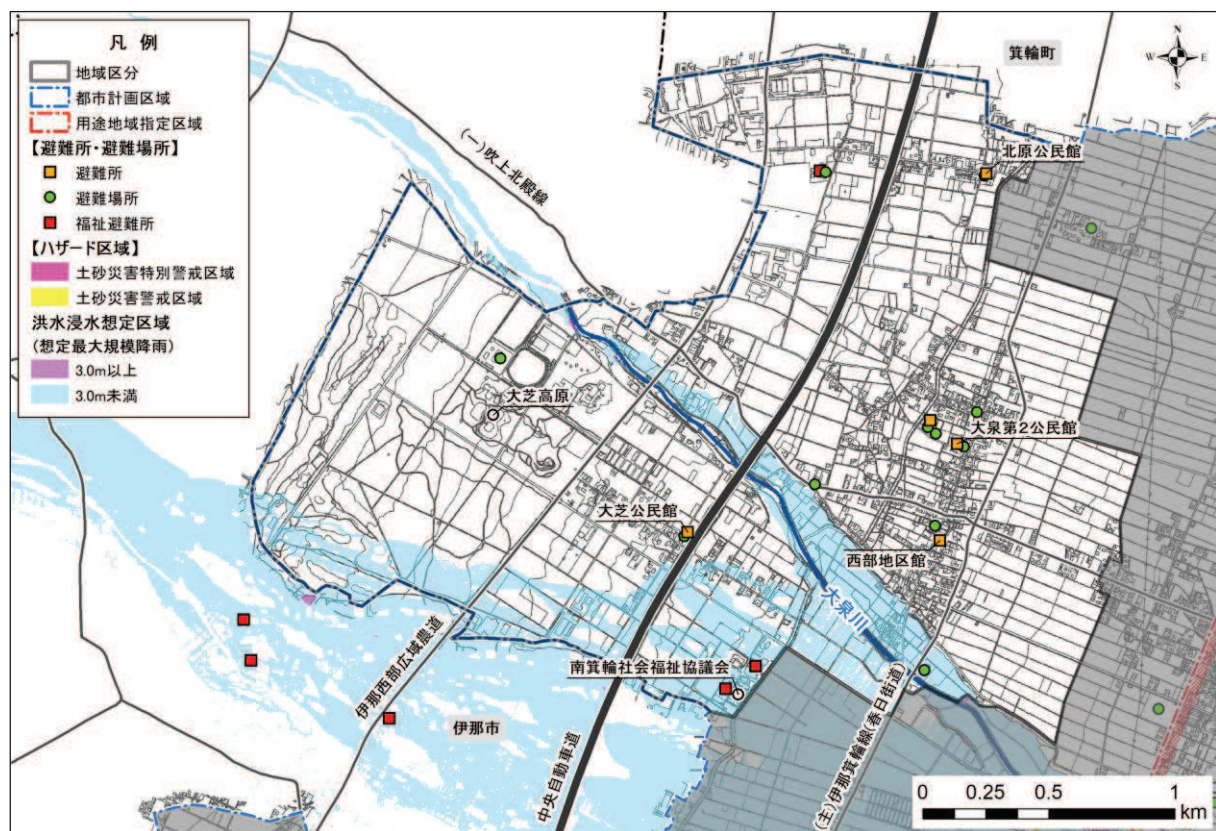
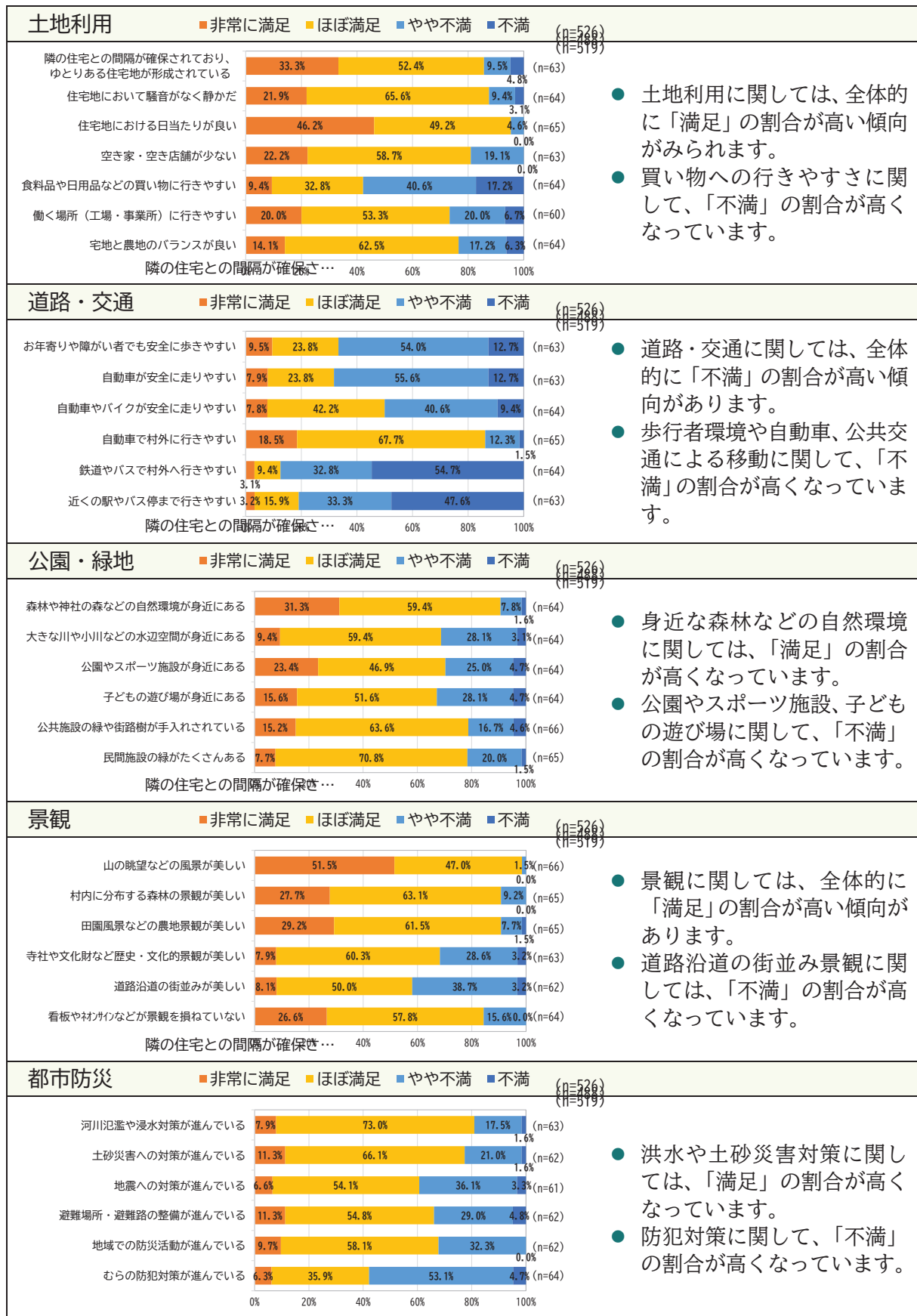


図 5-12 【西部地域】ハザード区域の指定状況

(3) むらづくりに関する住民意向

1) 西部地域の分野別満足度（村民アンケート調査）



2) 西部地域の課題（住民ワークショップ結果）

西部地域の住民ワークショップ結果より、地域の魅力や改善すべき点などを踏まえた分野別の課題を要約して整理しました。

表 5-12 【西部地域】住民ワークショップの実施概要

日 時	令和7年5月19日(月) 18:30～20:30
場 所	森の学び舎（防災研修センター）
参加人数	10 名



表 5-13 【西部地域】住民ワークショップ結果による分野別の課題（1/2）

分野	課題
土地利用	社会環境・居住環境 ● 人口増加に対して、区の役員のなり手不足や住民間の付き合いの希薄化などが指摘されています。 ● 空き家の増加が懸念されており、空き家の適正管理・活用が求められています。 ● バリアフリーに対応した村営住宅の整備など、高齢者や障がい者などが利用しやすい公共施設や環境整備が求められています。 ● スーパーへのアクセスが不便で、自家用車がなければ生活がしづらい点が課題として挙げられています。 ● 中央自動車道や幹線道路における騒音への対策が求められています。
	農地 ● 後継者不足による農地の維持の困難さや、宅地化の進行による営農環境への影響が懸念されています。 ● 工業団地の造成が進行することで、周辺の営農環境への影響が懸念されています。

表 5-14 【西部地域】住民ワークショップ結果による分野別の課題（2/2）

分野	課題
道路・交通施設整備	道路網 ● 人口規模に対して幹線道路や生活道路の幅員が狭いこと、道路の凹凸や段差の解消、車道と歩道の視覚的な区分、東西方向の道路交通の不便さが課題として挙げられています。 交通利便性・安全性 ● 大芝高原交差点における歩行者の安全対策が課題として挙げられています。 ● 小学校が遠いことによる通学の利便性・安全性、幹線道路での車両の速度超過、大型車の通行や冬季の路面凍結による危険性など、安全対策が課題です。 ● 生活道路から(主)伊那箕輪線へ合流しづらい、伊那西部広域農道の大芝高原交差点で右折がしづらい、幹線道路や生活道路における事故の増加などが懸念されています。 渋滞対策 ● 大泉交差点や久保・北原交差点における朝夕の交通渋滞への対応として、右折レーンの設置や青信号時間の延長などの渋滞対策が求められています。
公園・緑地保全と自然環境整備	河川環境 ● 大泉川沿いの草の繁茂、河川敷のゴミの清掃など、河川環境の保全が求められています。 公園・緑地 ● 大芝高原内の歩道や森林セラピーロードのバリアフリー化による段差解消など、ユニバーサルツーリズムの推進が求められています。
景観形成	森林・山岳景観の保全 ● 大芝高原の森林や南アルプス、中央アルプスの景観など、地域の美しい景観の保全が求められています。
都市防災	水害・土砂災害リスク ● 用水路の排水能力の向上、大泉川の河川改修、工業団地における雨水排水対策など、大雨時の水害対策が求められています。 ● 森林伐採による土砂流出が懸念されており、対策が求められています。 避難所の機能・避難路の安全性 ● 災害発生時の避難所の不足、防災用品・食料備蓄の不足、福祉避難所機能の不足など、避難所の確保や機能拡充が求められています。 ● 幅員が狭く危険な避難路への対応や、避難経路の明確化が求められています。 防災意識 ● 過去の被災箇所の情報発信など、防災意識の醸成に向けた取組が求められています。

(4) 西部地域の将来像

西部地域の特性・課題、住民意向を踏まえ、西部地域の将来像を以下のとおり定めます。

西部地域の将来像	
自然と人がつながる、緑にひらかれた西部地域	
森林や水辺に囲まれた豊かな自然環境を活かしながら、大芝高原を中心に観光、福祉、防災、産業など多様な機能が調和する空間を形成し、ゆとりある住環境と人々の交流、憩いが自然とつながる、ひらかれた地域づくりを目指します。	
将来像の構成要素 ● 自然との共生 …………… 森林、水辺、大芝高原の自然資源 ● つながり …………… 人と自然、人と人の関係性 ● 開放性・ひらかれた空間 …… 滞在、保養、緑豊かな住環境 ● 多機能性 …………… 観光、防災、福祉、産業の融合	

(5) 西部地域の整備方針

西部地域の将来像を実現するための分野別の整備方針を以下のとおり定めます。

表 5-15 西部地域の整備方針 (1/2)

分野	整備方針
土地利用	● 交流・防災拠点を核とした土地利用の形成 大芝高原を中心に、観光、保健、福祉、産業などの多機能が連携する土地利用を進め、村内外の交流を促す拠点性の高いエリアづくりを推進します。 ● 自然と調和した定住環境の確保 自然環境との共生を前提に、生活利便施設とのバランスを考慮した宅地整備を進め、定住促進につながる魅力ある住環境の形成を図ります。 ● 公共施設や観光資源の利活用による土地の有効活用 未利用地や既存施設の再編を通じて、大芝高原周辺を中心とした滞在・体験・交流機能の充実と土地の有効利用を推進します。
道路・交通施設整備	● 大芝高原へのアクセス性向上 交流・防災拠点である大芝高原へのアクセス性向上を図るため、幹線道路の整備や駐車場の分散配置などを通じて、交通利便性の向上を図ります。 ● 地域交通と観光交通の連携強化 観光客と地域住民の双方に対応する公共交通や交通結節点の整備を行い、公共交通の利便性と持続性の確保を図ります。 ● 滞在環境を支える歩行者空間の整備 大芝高原内の歩道や森林セラピーロードなどの歩行者空間の整備を通じて、誰もが快適に利用できる滞在・周遊環境の形成を図ります。

表 5-16 西部地域の整備方針（2/2）

分野	整備方針
自然環境保全と公園・緑地整備	● 森林と水辺環境の保全と利活用 大芝高原の森林や水系などの自然環境を保全しつつ、大芝高原内の施設と自然を有機的につなぐ緑のネットワークを形成し、保養・教育・交流の拠点として活用を図ります。 ● 大芝高原のバリアフリー化と快適性の向上 多世代・多様な利用者に配慮し、公園・歩道・休憩施設などのバリアフリー対応を進め、快適で安全な滞在空間の整備を推進します。 ● 既存公園の再整備及び公園の新規整備による多世代対応型空間の創出 既存の公園・緑地について、遊具や設備の更新、防災機能の強化、バリアフリー化を進めるとともに、新たな公園の整備により、こどもから高齢者まで多世代が快適に利用できる空間整備を推進します。
景観形成	● 自然と調和した景観の維持と活用 中央アルプスや大芝高原の森林などの自然景観を活かし、開放感と癒しを感じられる滞在環境を維持・活用する景観形成を推進します。 ● 春日街道の歴史的資源を活かした景観の保全 春日街道沿いに残る伝統的な街並みや建造物を保全・活用し、地域の歴史や文化が感じられる景観の形成と魅力発信を図ります。 ● 統一感のあるデザインの誘導 大芝高原の建物や案内板などにおいて、素材・色彩・形状のガイドラインを導入し、統一感のある景観形成を図ります。 三風の会等と連携して、伊那西部広域農道沿いの看板に景観的配慮を促し、統一感ある街並みの形成を図ります。 ● 協働による景観づくりの推進 観光関係者や地域住民、景観保全活動や河川保全活動を行っている各団体と連携し、花や緑を活かした景観整備や修景活動など、協働による景観づくりを推進します。
都市防災	● 大泉川流域の水害対策の強化 河川や斜面の防災インフラ整備、危険箇所のモニタリング強化などを通じて、水害への備えと地域の安全性向上を図ります。 ● 広域防災拠点としての防災機能の整備 広域防災拠点としての役割を果たす大芝高原について、非常用電源・備蓄倉庫・仮設トイレなどの整備により、災害時の受入体制の強化を推進します。 ● 地域連携による防災体制の充実 地域住民と観光施設の連携を強化し、避難訓練や情報共有体制の整備を通じて、災害対応力の向上を図ります。
上下水道整備	● 上下水道施設の維持管理と機能更新の計画的推進 上下水道の管路や施設の老朽化に対応するため、計画的な点検・修繕・更新を行い、漏水や管路破損などのリスク低減を図ります。また、耐震化や災害時対応力の強化を図り、平常時・非常時を問わず安定的に水の供給と排水処理が行える体制を確保します。 ● 公共下水道区域外における生活排水処理の推進 公共下水道事業計画区域外の地域においては、個人設置型浄化槽の設置により生活排水を適切に処理する取組を推進し、衛生的な生活環境の確保に努めます。

(6) 西部地域の整備方針図

前述の整備方針を踏まえ、「西部地域の整備方針図」を以下のとおり定めます。

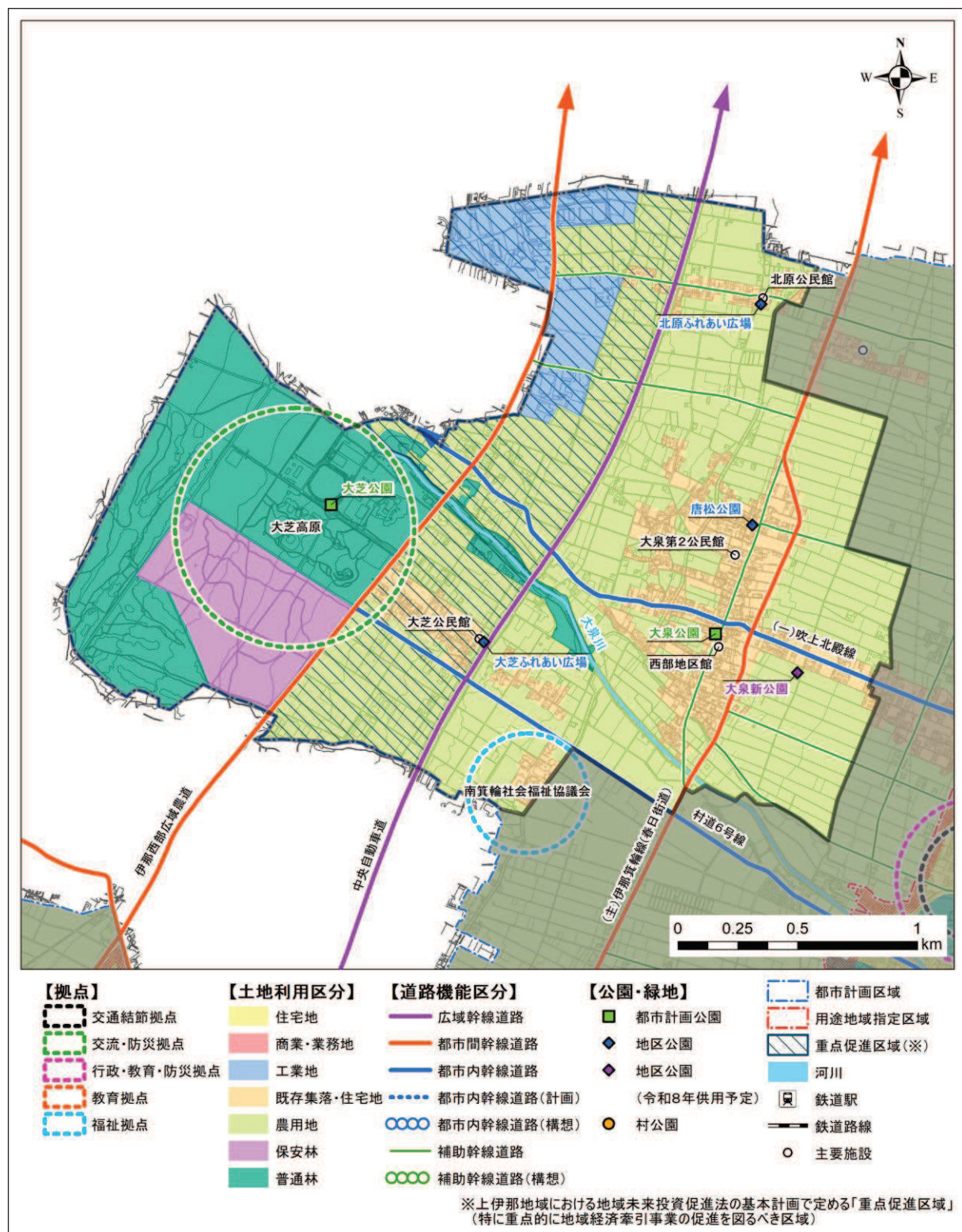


図 5-13 西部地域の整備方針図